

## ▶ ATJのYouTubeチャンネル

すべての商品産地が海外にある私たちにとって、コロナ禍で現地に赴くことができない期間に産地情報を伝える重要なツールとなったのが「動画」でした。

なんとと言っても最大の良さは、今までは伝えきれなかった街や村に流れる空気感や生産者の生活の様子をリアルに伝えられることです。

コーヒー畑に向かう途中のめちゃくちゃ揺れる山道のごぼこ感や、エコシュリンプの養殖池の広大さを知ることができるのは動画ならではのパーチャルツアーに参加している感覚でご覧いただけます。生産者が直面している悩み事や日本の皆さんへの想いの詰まったメッセージもあります。

現地パートナーも動画制作に力を入れていて、クオリティもどんどん上昇中です。オルター・トレード・インドネシア社(ATINA)では、新たに専門スタッフを雇ったそうなので、これからの作品にも期待が出来るそうです！今後も新しい動画企画を準備中なので、楽しみにしてくださいね。

大久保ふみ(おおくぼ・ふみ/ATJ)



ドローンを使って撮影した動画はなかなかの迫力！



よかったらチャンネル登録お願いします！



特定非営利活動法人APLA(Alternative People's Linkage in Asia) フィリピン・ネグロス島での30年以上の経験を活かし「農を軸にした地域づくり」のためのネットワークの構築を目指して、出会いや交流の場の創造を進めています。 [www.apla.jp](http://www.apla.jp)

株式会社オルター・トレード・ジャパン(ATJ) バランゴンバナナやエコシュリンプなどの食べ物との取引で、生産者と消費者を顔と顔が見える関係でつなぎ、人と人、自然が共生できる社会づくりを目指しています。 <https://altertrade.jp>

〒169-0072 東京都新宿区大久保2-4-15サンライズ新宿3F  
TEL03-5273-8160 FAX03-5273-8667 MAILinfo@apla.jp

過去のPtoP NEWSはこちらから  
特定非営利活動法人APLA

# 人から人へ PtoP NEWS vol.55 2023.04



特集

PtoP: 作る人と食べる人が共に支え合う仕組み



もつたいたい！楽しい！に「ぼこぼこバナナプロジェクト」進行中

活用のアイデアがたくさん！ぼこぼこバナナマーケットにて

### 全国のPtoPに関わる仲間を紹介する新コーナーです。

PtoPとは、作る人と食べる人が共に支え合う仕組みです。



今回ご紹介するのは、「顔のみえる店～FAIR TRADE 風's」。現在お店を経営しているのは、店を立ち上げ名古屋市をフェアトレードタウンにすることに尽力した土井ゆきさんから、2020年1月にバトンタッチした六鹿晶子さんです。

お店に並ぶ商品は、フェアトレードの食品や生活雑貨の他、地域の作家さんの手工芸品や福祉作業所と連携してつくったお菓子など。バランゴンバナナやマスコパド糖も販売しています。つつい手に取ってしまいたくなる目を引くものがたくさんあります。お店の名前「顔のみえる」には、六鹿さんの思いが込められています。作った人、その思い、作るプロセスなど製品になるまでの背景を伝え、生産者の「顔」を届けたいという思いです。商品も生産者とのつながりが感じられるので選んでいます。その思いは商品を説明するポップに表れており、

それはバランゴンバナナにも。ただ販売するだけでなくバランゴンバナナの生産背景を丁寧に伝えていきます。それと同時に、プランテーションバナナの実態を伝えるべく、農業散布の状況やそこで働く人びとの労働環境も、折に触れてお客様に話しているそうです。理解を深めるために考案した「BANANAぼと」(VoteとBoatをかけている)という取り組みは、コーヒーチケットのように少しだけお得に前払い購入してもらい、バナナニュースに書かれている生産者の状況やバナナにまつわる話をメールで発信しているとのこと。顔のみえる関係はそれだけではなくお客様同士のつながりも。店で出会ったお客さんたちの憩いの場にもなっています。

六鹿さんの活動はお店の外へも広がっています。竹串を使ってイラストを描くバナナアートやカカオ豆を使ったチョコレートづくりなどのワークショップも積極的に実施しています。身近なものを通じて世界の現状を楽しみながら学べるワークショップは、フェアトレードを知り「行動する」きっかけにもなるといいます。その他、卸業(愛知県庁をはじめとして納品先は10か所も)、イベント出店や商品開発なども精力的にしています。

現在のお店は春ごろまでで、移転する予定です。パワーアップした新しいお店が今から楽しみです。

まとめ 福島智子(ふくしま・ともこ/APLA)



### 顔のみえる店～FAIR TRADE 風's

Address 愛知県名古屋市東区東片端町49 正文館書店本店 2F

Tel 052-932-7373

Facebook <https://www.facebook.com/huzu.fairtrade/>

\*移転予定です。移転先の情報はfacebookをご覧ください。▶



特集



# もったいない!を楽しい!に ～「ぽこぽこバナナプロジェクト」進行中～ from 日本

規格外バランゴンバナナの有効活用を考える【ぽこぽこバナナプロジェクト】がスタートしてから約1年半。プロジェクトのメンバー中心だった活動が、メンバーの知り合いの飲食店へ、飲食店からイベント活用へと、じわじわと外へと広がってきました。

## 数字で振り返る【ぽこぽこ】の広がり

2500kg!これは2022年に規格外バランゴンバナナが活用された量です。定期的な購入も増え、注文数や活用内容をふまえると、ざっとですが1000人以上の方と規格外バランゴンバナナを通してつながれたのではないかと考えます。全体の45%くらいが飲食店で、そのまま販売するほか、シフォンケーキ、ジャム、バナナ酵母のパン、皮を混ぜ込んだクッキーに加工されています。お菓子だけでなくカレーなどもあります。熟度が高めなので、加工もしやすいようです。次に多かったのが一般家庭で20%くらいでした。この結果は意外でした。販売は1ケース10kg(約80本)なので、

家庭では量が多いと思っていたのですが、近所の方とシェアしたり、冷凍すればある程度もつので問題なく使えるというお話でした。SDGsをテーマとしたお祭りや学園祭などイベントでの活用も12%ありました。スイーツなどに加工して販売すると同時に、バランゴンバナナの背景を伝えたり、フードロスの問題について発信したりするツールとなっています。その他、授業やワークショップでの活用が7%、福祉施設のランチやおやつが4%、子ども食堂やフードパントリーでの活用が3%ありました。

## バナナビールまで!

たくさんの活用報告の中から、学生が取り組んだ事例を2つご紹介します。1つ目はある大学のゼミの取り組みです。こちらのゼミでは、規格外のバナナやバナナの皮を使った商品を開発して、その売り上げの一部をバナナ生産者へ寄付するというプロジェクトを計画。規格外のバナナの収集に苦戦する中、ぽこぽこバナナプロジェクトと出会ったということです。開発されたのは、バナナビール!地元のブルワリーと連携し、バナナの皮も実も使ったビールをつくることに成功しました。学内のSDGsコンテストで賞も取り、今後は販路の拡大をはかるとともに、ビール以外の商品の可能性も探りたいとのことでした。



バナナビールの試作品

また、ある大学では大学祭でバナナスムージーとバナナの販売をしました。バナナスムージーは300杯以上、バナナも100本近く売

れたそうです。フードロスやフェアトレードに関するポスターを作成して、バナナの背景を丁寧に伝えることで手に取ってくれるお客さんも増え、達成感が大きかったと言います。お客さんの反応ややり取りを通して、学生自身にも学びがあり、活動の後輩へとつなげていきたいと報告してくれました。



大学祭のブースでの販売風景

学生の例のほかにも、バナナを量り売りし、売れ残ったりははじめから熟度が高かったりしたものは加工品にして販売し、皮はつながりのある農家さんに送り肥料にするといったバナナをまるごと活用しているお店や生徒にバランゴンバナナの背景を話すとともに、朝ヨガ後にバナナスムージーやバナナケーキを提供しているヨガ教室、バナナクッキーを作ってお弁当に入れ、そのお品書きにバナナの説明を入れたりお客さんとのやり取りの中でバナナについて情報提供したりした地域食堂なども。様々な地域からいろいろな報告が寄せられました。

## 今後のぽこぽこ

ぽこぽこという名前は、APLAのロゴマークの「サンゴ礁の満ち潮」、あちこちに現れる小さな水たまり「ポコ」と「ポコ」がつながり結ばれていくように、バナナの有効活用を考えるユニークな活動がぽこぽこ生まれ、ひとつのぽこぽこが新たな人や活動をひきつけ大きなぽこぽことなることを願ってつけました。

この名前のように、規格外バランゴンバナナをツールとして、様々な人、もの、ことをつなぎ、それぞれがもつ個性を活かしてよりおもしろい活動をつくっていききたいと考えています。特に事務所やリパックセンターの周辺と連携して、「もったいないが楽しく」なる活動をぽこぽこ生み出したいと思います。

福島智子 (ふくしま・ともこ/APLA)



ぽこぽこバナナプロジェクトについてご興味・ご関心のある方は  
WEBサイト、インスタグラムなどをご覧ください。→

